

令和6年度 第1回、第2回観光・交流部会での意見一覧

発言要旨	部会No	委員
目指す姿1：「何度でも訪れたくなるあきた」の創出		
施策の方向性① 自立した稼ぐ観光エリアの形成		
◆観光人材の確保と育成		
・県内在住で観光業への就職を希望する若い世代はどの程度いて、その方々が何をきっかけに観光業に興味を持つのか気になっている。人と触れ合うことが好きな方が観光業に就けるよう、幼少期からの人材育成を進めていければ良い。	1	黒川委員
・観光業に就く方を増やすに当たっては、休みが取りやすい、家族との時間をとれる環境づくりが必要。	1	黒川委員
・インバウンド誘客の観点からも、文化の次世代への継承は重要。県内の多くの方は秋田の歴史について詳しくなく、観光関係の仕事に就いている方も同様に詳しい方が少ない。	2	豊田委員
・デジタル人材の育成についても、提言書の素案には反映してほしい。	2	吉澤部会長
施策の方向性② ターゲットの的確な把握と効果的な誘客プロモーションの展開		
◆認知度向上に向けた情報発信		
・秋田の場合、宿泊施設のキャパシティがそれほど大きくないため、インバウンドを含め遠方からの観光客を増やして旅行単価を上げるという戦略は選択肢の一つとなると思う。	1	豊田委員
・遠方から観光客を呼ぶためには、秋田にしかないものが必要。秋田にしかないものがあり、加えて温泉や料理もレベルが高い、というプロモーションができると良い。	1	豊田委員
・動画については3分ほどが使いやすく、若者には訴求しやすいプロモーションだと思う。	2	吉澤部会長
・インバウンドを含め、県外の方からどう見えるか、が重要であり、PRしたいことはインターネット上に情報がなければいけない。特にインバウンドについては、インターネット上に情報が無いものは、存在自体が無いものと同じ。旅行の計画や予算はインターネット上の情報で決まるため、その点をもっと意識してほしい。	2	豊田委員
◆秋田県観光DMPの活用促進		
・施設にとって負担が少ない宿泊者アンケートの手法を検討する必要がある。	2	黒川委員
・DMPについては、システムの構築より、その後の利活用が重要。	2	吉澤部会長

発言要旨	部会No	委員
施策の方向性③ 時代の変化を捉えた秋田ならではのツーリズムの推進		
◆洋上風力発電施設の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行を想定した洋上風力発電の活用についても提言書の素案には反映してほしい。 	2	吉澤部会長
◆自然や歴史・文化を生かした誘客の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・スキー大会等は冬季集客につながるためありがたい。以前はスキー場として営業していた山等を活用して集客につなげられればという声がある。 ・農山漁村の風景や営みを生かした生活観光の推進についても、提言書の素案には反映してほしい。 	1 2	黒川委員 吉澤部会長
施策の方向性④ 旅行者の多様なニーズに応じた受入態勢の整備		
◆誰もが安心して旅行できる受入態勢の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な旅行者ニーズに対応するため、受入態勢の整備に当たってはユニバーサルツーリズムの観点が必要。 ・観光案内看板については、QRコード等を活用し、更に多くの場所で目にする機会があればよい。QRコードで検索できるようになると、観光客だけでなく県民も活用しやすい。 ・県の観光サイト「あきたファン」について、知らない県民の多いと思うので、こちらの情報発信もお願いしたい。 ・旅行単価の高い個人旅行者、特に家族旅行をひきつけられるかは、家族の多様なニーズに応じた受入態勢についての情報が「ネット上に示されているか」にかかっている。「来てみたら意外に良かった」では、観光ビジネスの成功にはつながらない 	2 2 2 2	吉澤部会長 守屋委員 守屋委員 豊田委員
施策の方向性⑤ 戦略的なインバウンド誘客の推進		
◆遠方からの誘客促進 <ul style="list-style-type: none"> ・（再掲）秋田の場合、宿泊施設のキャパシティがそれほど大きくないため、インバウンド含め遠方からの観光客を増やして旅行単価を上げるという戦略は選択肢の一つとなると思う。 ・（再掲）遠方から観光客を呼ぶためには、秋田にしかないものが必要。秋田にしかないものがあり、加えて温泉や料理もレベルが高い、というプロモーションができると良い。 	1 1	豊田委員 豊田委員
◆体験型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド誘客に関しては、動画配信に更に力を入れてほしい。川連蒔絵や田沢湖でのSUP、ミニかまくらなど、体験動画は興味を引くのではないか。県民も興味を持ってSNSで発信するような動画作成に取り組んでいただきたい。 ・（再掲）インバウンドを含め、県外の方からどう見えるか、が重要であり、PRしたいことはインターネット上に情報がなければいけない。特にインバウンドについては、インターネット上に情報が無いものは、存在自体が無いものと同じ。旅行の計画や予算はインターネット上の情報で決まるため、その点をもっと意識してほしい。 ・インバウンド向けのPRについては、観光客が、その場所でどのように過ごせるかイメージがつきやすいよう、モデルの活用についても検討してほしい。 	2 2 2	守屋委員 豊田委員 黒川委員
◆チャーター便等の運行促進 <ul style="list-style-type: none"> ・一般的に、インバウンド観光客の旅行単価が高いほか、大館能代空港の周辺には、大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡など、インバウンド向けにも目玉となる素材があるため、外国人も利用しやすいような環境整備が必要ではないか。 ・秋田空港について、台湾観光客に対する施策はもっと積極的に行った方が良い。 	2 2	豊田委員 守屋委員

発言要旨	部会No	委員
目指す姿2：「美酒・美食のあきた」の創造		
施策の方向性① 消費者ニーズを捉えたオリジナル商品の開発と秋田の「食」のブランド化		
◆ブランディングの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・秋田の商品については、内容やその魅力に関しての説明が足りていないと感じている。商品の質だけでなく、その質をどのように紹介するかも考える必要がある。 ・ブランディングの促進について、秋田としてのPRも重要だが、地産地消の観点から、秋田の食材を使用している商品をPRすることも必要ではないか。食のチャンピオンシップでの入賞商品についてもPRに力を入れてほしい。 ・他の商品との違いをはっきり示してこそブランディングにつながる。 ・ブランディングについては、外部の目からその商品がどう見えるのか、という点が重要。ブランディングについては、県外の力を借りるということも必要かもしれない。 	1 2 2 2	豊田委員 守屋委員 豊田委員 黒川委員
◆米粉の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・米粉の利用促進についても、提言書の素案には含めていただきたい。 	2	吉澤部会長
施策の方向性② 食品製造業の振興		
◆新商品の開発や販路拡大に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・販路の拡大については、HACCPやFDAなど輸出に必要な認証取得への支援があるとありがたい。 ・パッケージのデザイン、小分け販売、事業所間の連携についても、提言書の素案には含めていただきたい。 	1 2	守屋委員 吉澤部会長
施策の方向性③ 多様な流通チャンネルを活用した県産食品の販売の促進		
◆食品事業者や商品の情報を集約するプラットフォームの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・食材等について、業者向けなどで、新商品も含め、秋田県内にこういったものがあるのか探しやすいサイトや仕組みがあるとありがたい。 	1	黒川委員
◆新たな市場開拓への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・北欧市場への売り込み等についても、提言書の素案には含めていただきたい。 	2	吉澤部会長
施策の方向性④ 秋田の「食」の魅力の発信と誘客への活用		
◆発酵文化の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・技術を受け継ぐ人材の確保に不安がある。 県南部には味噌醤油屋のほか、酒蔵も多くある。こういった分野を学ぶ環境づくりにより、就職や定住につながっていくのがよい。 ・県南部の醸造文化を市場に認知してもらう必要がある。 	1 1	守屋委員 吉澤部会長

発言要旨	部会No	委員
目指す姿3：文化芸術の力による魅力ある地域の創生		
施策の方向性① あきた芸術劇場を核とした文化芸術の発信とにぎわいづくり		
<p>◆ミルハスを活用した文化振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が地域のことをよく理解するための象徴的な存在として、ミルハスが何か役割を担うことができると良い。 ・ ミルハスの活用については、行政としては余り細かい指示を出さず、専門家にある程度任せるという意識も必要である。 ・ 例えばコンサート×日本酒など、秋田ならではの素材をコラボレーションした催しも面白いかもしれない。意外なものが集客に結びつく事例は多くあるため、そういった視点も大切にしてほしい。 	2 2 2	吉澤部会長 豊田委員 黒川委員
施策の方向性② 文化芸術活動の促進と次代を担う人材の確保・育成		
<p>◆文化芸術に触れやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、どこに落書きしても良いなど、好きな人が自由にアートを楽しめる環境やイベントがあっても良いと思う。 ・ 県出身音楽家による音楽愛好家を対象としたアウトリーチ事業は非常に良い事業だと思う。子どもがプロに教わる機会を持てるのは非常に良いことであり、様々な文化芸能のジャンルでこういった取組を進めてほしい。 ・ 文化芸術を人や物の交流拡大につなげていくためには、四季折々の祭りや伝統行事、民俗芸能を如何に次世代に継承するかが重要な視点となる。 ・ 秋田城や大湯環状列石など、国際的価値を有する秋田県の史跡等について、県内の若い人たちが知る機会を設けることが必要。 ・ 民俗芸能については、観光や県民のアイデンティティの形成に是非活かしていただきたい。 	1 2 2 2 2	黒川委員 守屋委員 豊田委員 豊田委員 豊田委員
施策の方向性③ 文化芸術を通じた交流人口・関係人口の拡大		
<p>◆文化芸能の理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田県は47都道府県の中で、最も重要無形民俗文化財の多い県である。重要無形民俗文化財をはじめ、民俗行事は観光コンテンツとして認められているため、すぐに経済効果に結び付かない場合もあるが、そういった認識は必要。 ・ (再掲) インバウンド誘客の観点からも、文化の次世代への継承は重要。県内の多くの方は秋田の歴史について詳しくなく、観光関係の仕事に就いている方も同様に詳しい方が少ない。 	1 2	豊田委員 豊田委員

発言要旨	部会No	委員
目指す姿4：活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現		
施策の方向性① ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進		
◆気軽にスポーツを楽しむ環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や中高年齢層が気軽に体を動かす機会を作っていくことが必要。その関係では「秋田県自転車活用推進計画」を活用してほしい。同計画では、高齢者が安心して自転車を利用できる環境や、外国人観光客が自転車を利用しやすい環境づくりについて指摘している。自転車通行帯の整備を計画的に進めてほしい。 ・アクセスしやすい公共施設に気軽に運動できる場所があれば、運動に取り組む人は増えるかもしれない。 ・多様なスポーツ活動の促進については、高齢者が楽しく運動に取り組みやすい環境づくりが重要。10～15分程度の簡単な運動で、家庭で取り組みやすい内容が望ましい。 ・障害者スポーツの視点があってもよい。 	2 2 2 2	豊田委員 守屋委員 黒川委員 吉澤部会長
施策の方向性② スポーツを通じた地域づくりと交流人口・関係人口の拡大		
◆スポーツによる冬季誘客の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・（再掲）スキー大会等は冬季集客につながるためありがたい。以前はスキー場として営業していた山等を活用して集客につなげられればという声がある。 	1	黒川委員
施策の方向性③ 全国・世界で活躍できるアスリートの発掘と育成・強化		
◆様々なスポーツに触れることができる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・アスリートの育成については、子どもたちに対する趣味の押し付けにならないよう配慮が必要であり、種目については本人の意向を尊重すべき。 ・高校生の部活に力を入れることは、場合によっては学修の軽視につながるため注意が必要。 ・アスリートの育成については、幼い時期から様々なスポーツを体験できる環境づくりが必要。小学校ではなく、幼稚園等の段階でスポーツに触れる機会があれば、子どもの興味も増えていくのではないか。中学校や高校の段階では、プロの選手と交流する機会が増えると良い。 ・アスリートの育成については、様々な選択肢から、自分に合ったスポーツを選ぶことができれば、もっと能力が伸びるかもしれない。 ・パラアスリートの視点があってもよい。 	2 2 2 2 2	豊田委員 豊田委員 守屋委員 黒川委員 吉澤部会長
施策の方向性④ スポーツ活動を支える人材の育成と環境の整備		
◆地域のスポーツ活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行について、関係者への説明不足を感じる。進めるに当たってはもう少し細かな配慮が必要。 	1	守屋委員

発言要旨	部会No	委員
目指す姿5：国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築		
施策の方向性① 幹線鉄道の整備の促進とフェリー航路の維持・拡充		
◆幹線鉄道やフェリー路線の維持 <ul style="list-style-type: none"> ・秋田まで来る飛行機や新幹線という1次交通は引き続き維持してもらいたい。 ・日本海沿岸東北自動車道の延伸により、秋田港と酒田港は競合する可能性がある。高速道路整備により、人だけではなく物流にも影響がある点については意識してほしい。 ・高速道路の整備によって秋田県の交通システムが変わっていく中での秋田港の位置付けについては、しっかりとビジョンを持っておくべき。 	1 2 2	吉澤部会長 豊田委員 豊田委員
施策の方向性② 航空路線の維持・拡充		
◆世界文化遺産等の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・（再掲）秋田まで来る飛行機や新幹線という1次交通は引き続き維持してもらいたい。 ・大館能代空港の割引キャンペーンについては効果が大きく、利用して宿泊するお客様も多い。このキャンペーンがあって初めて大館能代空港を利用したという声もあり、引き続き広告宣伝に力を入れてほしい。 ・（再掲）一般的に、インバウンド観光客の旅行単価が高いほか、大館能代空港の周辺には、大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡など、インバウンド向けにも目玉となる素材があるため、外国人も利用しやすいような環境整備が必要ではないか。 ・（再掲）秋田空港について、台湾観光客に対する施策はもっと積極的に行った方が良い。 ・空港や航空路線の維持は非常に大切な部分であり、引き続き取り組んでほしい。 	1 2 2 2 2	吉澤部会長 黒川委員 豊田委員 守屋委員 吉澤部会長
施策の方向性③ 利便性の高い地域公共交通網の形成		
◆地域の実情に応じた公共交通の維持・活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・2次交通については、観光客と地元住民の利用の両面から考えていく必要がある。 ・バス運行が少ない地域で公共交通機関の利用を促すのであれば、小型バスや循環路線など、地域の状況に応じた仕組みが必要。 ・バスだけではなく、電車の位置情報もオンラインマップにリアルタイムで表示できるよう、県からJR東日本に働きかけてほしい。 ・ライドシェアについて全国でも導入方法を模索しているため、秋田県においても実情にあった方法を見いだしていただきたい。 ・コミュニファイ交通の情報がオンフィンマップで検索できない状況では、住民にとってもその存在が分かりづらい。コミュニティ交通の整備に当たっては、住民だけではなく、誰もが使いやすいシステムづくりが重要。 ・3大都市圏においては、公共交通の利用者は10年程前から増加傾向にある。高齢化により公共交通の利用者は増える可能性があり、高齢化の最先端である秋田県においては、公共交通の利用者増加やコミュニティ交通の再生強化に力を入れていただきたい。 	1 1 2 2 2 2	吉澤部会長 黒川委員 豊田委員 吉澤部会長 豊田委員 豊田委員

発言要旨	部会No	委員
<p>◆地域公共交通の利用促進によるカーボンニュートラルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県としては、マイカー通勤がどれほど環境負荷をかけているのか周知、啓蒙する必要がある。県民への理解が広がれば、車をやめてバスを利用しようとする方が増えるのではないかと。 ・ 選択集中プロジェクトとしてカーボンニュートラルを掲げているのであれば、予算措置としても一定の配慮があってもよい。 ・ 全国的に路線バスなどの公共交通機関の利用者は減少傾向にある。カーボンニュートラルの観点から、住民には利用を促したり、事業者には運行の下支えをするなど、支援策を見直す必要はあるかもしれない。 ・ 買い物のために地域公共交通を利用する地元の高齢者は困っている方が多い。富山市では、市内の生花店で500円以上の買い物をすると市内のバスが無料になるという取組を行っており、カーボンニュートラルの観点からも興味深い取組だと思っている。 ・ 公共交通網の形成に向けた予算確保については、是非カーボンニュートラルの観点からも取り組んでほしい。 	1 1 1 2 2	豊田委員 豊田委員 吉澤部会長 黒川委員 豊田委員
<p>◆人材確保に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公共交通については、運転手の確保も課題であり、行政からの支援が必要だと感じている。 ・ 運転手の人材確保に向け、職場見学や職場体験、若しくはバスの運転体験等の取組が必要。 	2 2	守屋委員 吉澤部会長
施策の方向性④ 第三セクター鉄道の持続的な運行と観光利用の促進		
<p>◆県民利用の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (再掲) 2次交通については、観光客と地元住民の利用の両面から考えていく必要がある。 ・ 県内の観光関係者が、内陸縦貫鉄道道の景観が秋田の大きな観光資源の1つであるという認識を共有することが必要。 ・ 利用しやすい環境づくりは進めつつ、関係者がその魅力をしっかりと認識した上で売り込みを行うことが必要。 ・ 観光の目玉として、景観の動画をYouTubeに挙げるなど積極的にPRすべき。また、県外客だけでなく、県民の閲覧も促進し、その魅力を知ってほしい。 ・ 例えば8月の1ヶ月間は県内の小中高校生は無料で第三セクター鉄道を利用できる等、小中高校生の運賃無料化は他の都道府県でも事例はあるため、秋田県でも是非取り組んでいただきたい。 	1 2 2 2 2	吉澤部会長 豊田委員 吉澤部会長 守屋委員 豊田委員
<p>◆利用環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第三セクター鉄道について、Wi-Fiや電源など、観光客のニーズに沿うことができれば、更に人気が上がっていくと思う。 	2	豊田委員
施策の方向性⑤ 高速道路等の整備		
<p>◆交通ネットワークの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (再掲) 日本海沿岸東北自動車道の延伸により、秋田港と酒田港は競合する可能性がある。高速道路整備により、人だけではなく物流にも影響がある点については意識してほしい。 ・ (再掲) 高速道路の整備によって秋田県の交通システムが変わっていく中での秋田港の位置付けについては、しっかりとビジョンを持っておくべき。 ・ 秋田港につながるアクセス道路の整備も併せて進めていただきたい。加えて、その内容がしっかりと周知されているという状況が大切。 	2 2 2	豊田委員 豊田委員 吉澤部会長